



JFQA[®] JAPAN FOOD QUALITY ADVISER ORGANIZATION
日本食品保健指導士会

Vol.41

■発行所：日本食品保健指導士会 ■発行：令和元年10月23日
 〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町2-7-27 TEL 03-6280-8336 FAX 03-6280-8337
 (公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 内)

信川益明氏が中国で日本の健康食品の現状を講演！
 ～第1回中国国際輸入博覧会～



信川益明先生と日本食品保健指導士会松山理恵子会長



講演後に関係者一同との記念写真に納まる信川益明先生(中央)

日本食品保健指導士会が発足以来、さまざまな面でサポートをいただいているのが信川益明先生。今もご自身のクリニックで患者さんを診ながら日本の行政関連の仕事のみならず海外の機関との仕事も精力的にこなされています。今回はその信川先生の活動の一部をご紹介します。

2018年11月5日～10日、中華人民共和国商務部と上海市人民政府が共催した*「中国国際輸入博覧会 2018 (CIIE2018 : China International Import Expo)」が来場者80万人(成約額578億ドル)を集めて上海で開催され、日本健康科学学会理事長、健康食品認証制度協議会会長として信川益明先生が「中日共存(共享)健康生活」と題する講演を行い、中国政府関係者、中国メディアと各業界代表者に対して、日本の健康科学や健康食品に関する最新の情報についての講演を行いました。日中両国で協調して健康寿命延伸や健康生活に関する新しい施策を構築していく重要性を改めて強調しました。

次回、CIIE2019は、11月に開催、151カ国・地域から3600を超える企業が出展予定です。(7月28日人民日報に信川理事長取材記事掲載)

*【参照】

中国国際輸入博覧会局と国家会展中心(上海)(National Exhibition and Convention Center (Shanghai) Co., Ltd)が運営、中華人民共和国商務部と上海市人民政府が共催している。この種の展示会としては初めて、世界貿易機関(WTO)、国連貿易開発会議(UNCTAD)、国連工業開発機関(UNIDO)など国際機関の後援を受けている。

健康とアート・デザインと関係性も科学的に証明！
 ～日本健康科学学会第35回学術大会～

2019年9月5日～6日、信川益明先生が理事長を務める日本健康科学学会第35回学術大会が大阪のなんばスカイオで開催されました。今回のテーマは『アート・デザインと健康』。世界的にアート・デザインと健康とが密接に関係しているというデータが多く発表されだしており、これらを医療機関や福祉施設などの臨床現場でどのように活用できるかについての積極的な議論が展開されました。

さらに、市民公開シンポジウムでは、「クリエイティブ・ヘルス」をテーマに、森口ゆたか氏(美術家、近畿大学文芸学部教授、アートミーツケア学会副会長)や柴崎千桂子氏(クエストアートセラピー学院長、高野山大学非常勤講師)等豪華な講師陣によるアート、デザインで健康促進に繋げる為のポイントや日本と海外との認識の違いなどが話し合われました。

日本食品保健指導士会からは松山理恵子会長が代表して参加、機能性表示食品のセッションでは機能性食品に関する提言も行いました。



日本健康科学学会第35回学術大会にて
 阿南久元消費者庁長官(右)
 宗林さおり国民生活センター理事(中央)
 松山理恵子会長(左)

日本健康科学学会第35回学術大会にて
 信川益明先生と松山理恵子会長

【信川益明先生略歴】
 東京都生まれ
 慶應義塾大学医学部大学院修了
 前慶應義塾大学医学部教授
 医療法人社団千禧会理事長
 医療健康科学研究所所長、千代田漢方内科クリニック院長
 日本健康科学学会理事長
 健康食品認証制度協議会会長
 厚生労働省化学物質リスク研究事業事前評価委員会委員
 公益財団法人日本健康・栄養食品協会元理事

2019年日本食品保健指導士会総会

日本食品保健指導士の令和最初の総会が2019年6月8日、公益財団法人日本健康・栄養食品協会で開催されました。

開会に先立ち、松山理恵子会長は「現在、指導士会は「食育」という部分にも重点を置いて活動しており、消費者とつながることを目的に展示会等への出展も積極的に行っています。現執行部も今年度が最終年度ですが、ぜひ指導士の皆さんには次の執行部に加わっていただき積極的に会の運営に参加していただければと思います」と挨拶を述べました。

議案は、若干の修正事項はありましたが第一号議案から第六号議案まで無事承認されました。(詳細は議事録をご参照ください)



令和元年日本食品保健指導士会通常総会の様子



公益財団法人日本健康・栄養食品協会
学術情報部長 小林一夫氏



機能性食品部次長 坂間厚子氏



令和元年日本食品保健指導士会通常総会
山内龍蔵氏



日本食品保健指導士会
山理恵子会長

総会後には公益財団法人日本健康・栄養食品協会 学術情報部長の小林一夫氏と機能性食品部次長の坂間厚子氏からの記念講演が行われ、その後の懇親会では、普段なかなか会えない指導士同士、和気あいあいと情報交換がなされました。





日本食品保健指導士会

九州支部

Kyushu branch

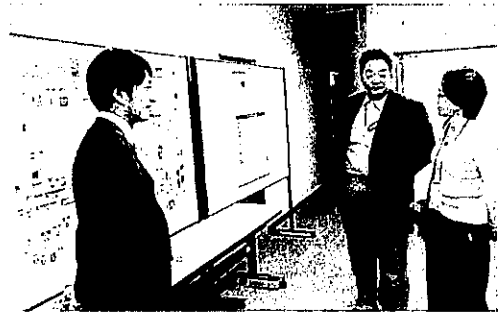
支部長 吉瀬 功 勉

副支部長 徳 永 睦 子

令和の時代を迎え、九州支部をはじめ全国の食品保健指導士でいらっしゃる皆様方にとって、これまでの平成の時代以上により良い年でありますことを、心より祈念いたします。現在、新たな国の規制改革実施計画に基づいて、機能性表示食品制度の新しい検討と措置準備が行われております。

消費者庁 WEB サイト 機能性表示食品に関する情報 ご存じでしたか？すいません、私は実のところ、不勉強にも、管轄保健所の方から教えてもらいました。「機能性表示食品」制度は、消費者の「自主的かつ合理的な商品選択の機会の確保」を促す制度です。制度の正しい理解に基づいて、消費者の誤解を招かない情報提供を責任を持って行う必要があります。（食品メーカーに対してのリーフレットより引用）

食品の機能性表示により、一般生活者の方々の健康志向と、供給者との間の情報の需給を整理することが目的としているとも言え、いわゆる食品の三次機能（一次：味覚充足、二次機能：栄養補給）に関する情報量を増や



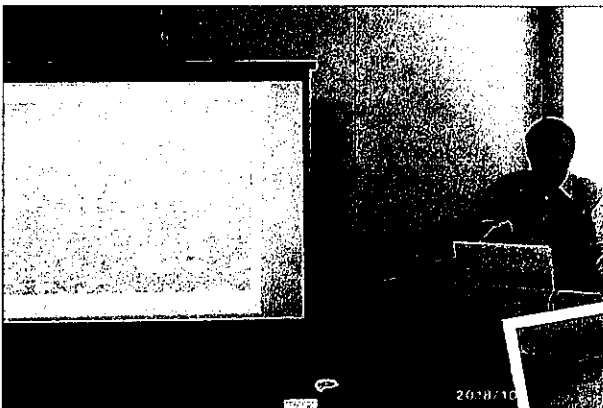
すことで、不当や誇大な表現が一人歩きしてしまうことを防ごうとするものです。

このような制度の新設、変更に際して、私たち食品保健指導士は加工食品のみならず、農産物に関してなど、情報力とその活用力を高めることが迫られています。単位取得のためのセミナーはもとより、より幅広い情報、知識を自ら求め、常に各種のメディアに対してアンテナを張っておくことが求められるとも言えるのではないのでしょうか。また、機能性食品の副作用や健康被害について、あるいは大手メーカーなどの機能性食品新商品の動向について、さらには食品表示の新たなルールについて、私たちは十分な情報を持ち得ているのでしょうか。自問自答をしてみるにつけ、私自身の評価は「足りない。」です。

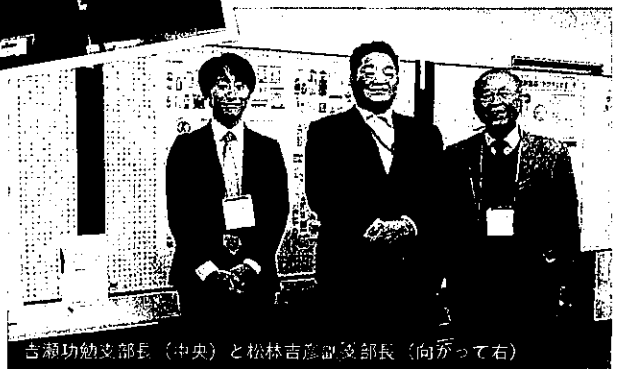
令和の時代の日本社会において、食品保健指導士資格保有者に求められている役割は、さらに大きくなると考えられますが、その負託に応えるパフォーマンスをできますか？より高いレベルの食品保健指導士を目指して、一歩ずつであっても階段を上っていこうではありませんか。九州支部は、この「より高い」を目指す食品保健指導士さんをバックアップし、かつ一般消費者の方々のニーズに応えていける。そんな支部でありたいと思っております。乱筆をお詫びしつつ、どうぞ九州支部をよろしく願います。

九州支部支部長

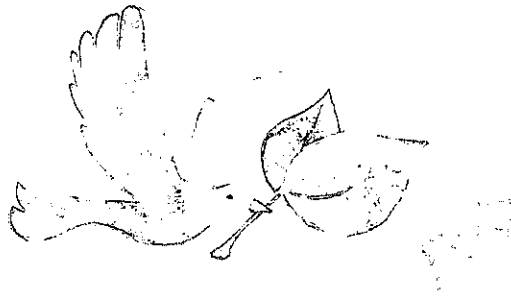
吉瀬 功 勉



おい！食育推進全国大会



吉瀬功勉支部長（中央）と松林吉彦副支部長（向かって右）



日本食品保健指導士会

関西支部

Kansai branch

支部長 蓬 郷 健

副支部長 近 江 信 夫



日本エイズ学会へ初の指導士会ブース出展！ 出展を終えて！

この度、昨年12月に日本食品保健指導士会初となる医療学会にブースを出展させて頂きました。出展に至る経緯としては、私自身の仕事に於いて必要と思われる知識を深める為、自身が所属する医学会以外にも、数力所自主的に参加しています。その中の参加している学会の中で、このエイズ学会というのがあります。

「ボヘミアン・ラブソディ」の公開もあり、年々、エイズへの関心や理解も深まる中で、近年のエイズ治療も目まぐるしく発展し、早期発見・早期治療開始と服薬継続で、死に結びつく疾患ではなくなってきている時代になってきています。

しかしながら、感染者数は年々増加傾向にあり、性感染症（特に、梅毒等）と共に増加を辿っています。そのような背景の中で、通常、医学会となれば参加対象は、医師と企業が主であるのに対し、この学会は、プライバシー保護も考慮されており、エイズ診療は医師と共にコメディカル（注1）が綿密に関与しているため、患者サイドや支援団体など様々な連携していく方々が多数参加されています。診療の進め方・検査・治療薬剤・服薬アドヒアランス（注2）・精神支援・看護支援・社会支援などが主体に対して、栄養支援等はさほど関与されておらず、一昨年に「プロバイオティクスで腸内フローラが改善しサイトカインと治療効果を上げる」という演題が1題招聘講演であった以外は、意外と栄養の話は出てこないことに疑問を感じ、患者側の栄養への期待と医療側の捉え方がアンケートから解るのではないかと考え、出展に踏み出した次第です。

3日間の出展で、個人的に感じたことは、この日本食品保健指導士会の認知度は0%であったという現実と、また、ブース立ち寄り数やアンケート（注3）の回答数も極端に少ないのは、医師という結果でした。

さらに、薬でも無く食品でも無い部分の働き掛けも担当する職種と介入方法と情報収集と指導とそれらの共有は十分とは言い難く、健康志向の関心とは矛盾した内容でありました。これは、この学会に限らず、特に保険診療の場面では、本来、栄養補助食品は、あくまで補助であるのに対し、治療の妨げになるような摂取方法をする

患者が選択した摂取サプリが、薬剤への拮抗成分となっていることもあり、このあたりが医師を否定的にさせ、立場上、エビデンスが確立されていない限り勧める訳にもいかず、また、企業の選定が無理難解なため受動的となり、患者の栄養の把握と関与に至らない部分でもあったと感じました。

管理栄養士の出席も研究職以外は見受けられず、指導するにあたり当会の資格は、もっと医療分野で認知されるべきものであり、当会内10%という医療従事者の資格者数を増やし、中立な立場で私見に偏ることなく医療知識と共に診療が円滑となるように介入することが肝要だと思いました。

本資格により、医師・薬剤師・管理栄養士・患者への正しい知識の提供と橋渡しの担い手となり、情報共有と治療と健康維持向上の手助けができれば、この資格の取得した意義も明確になるのではないかと切実に感じ、医療分野への認知をあげるための当会からの努力も、一層必要であると感じつつ、今回のような出展は、様々な視点からの気付きや課題等医療現場の見直すべき点など、私にとって、収穫のある経験となりました。

最後に、出展にあたり、このような機会を与えて下さった日本エイズ学会白阪会長、当会の松山会長・横山副会長の御教示と、初日参加して下さいました坂口元関西支部長の御協力に深く感謝いたします。

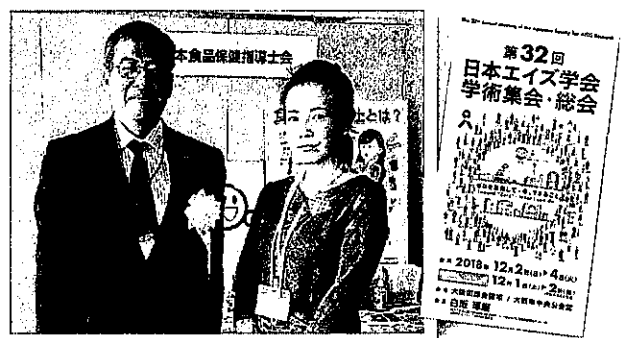
（注1）医師・歯科医師の指示で業務を行う医療従事者のこと。

（注2）患者サイドの内服遵守

（注3）調査アンケートの回収は50名。集計と考察などは、今年度学会発表を予定としています。

関西支部

中川 あゆみ



岡山県で指導士会セミナー初開催！

この度中四国在住者で研修会参加が難しい指導士の要望に応えるべく、岡山市でのセミナー開催が実現できました。ノートルダム清心女子大学 教授小林謙一氏からは機能性食品の現状・課題・未来について、産業医 清水内科清水孝一氏からは健康寿命を延長させるために医療と特定保健用食品・機能性表示食品が協力できることをテーマに講演いただきました。

アンケートでは「現在の特保や機能性表示食品がカバーできてない領域や未来の可能性についての話は大変興味深かった」、「清水医師のマインドコントロールと生活指導は新しい考えで興味深く、加齢に伴う話も参考になった」等前向きな感想が多く、遠方からも多くの指導士が参加して盛会で終ったことに胸を撫でおろしております。協力いただいた関係者各位に感謝を申し上げます。

業界に携わる者の共通の想いとして「人々の健康に貢献したい」このことが中心に据えられていると存じます。商いとして利益もあげないといけない、新商品・新たな取り組みや情報発信もしなければならない、他社との価格競争等の現実もあります。しかしその現実のためだけ

に仕事時間を費やすのでは、この先行き詰ります。何を成したいのか=人々の健康に貢献したい！その1点に軸を添え私たち食品保健指導士は、消費者へより適切なアドバイス、情報発信能力、行動力を高めるため幅広い知識の習得・日々の勉強を実践していきましょう。



関西支部 支部長
蓬郷健



ノートルダム清心女子大学 人間生活学部食品栄養学科
小林謙一教授



清水内科 医師 清水孝一氏

皆様、こんにちは。

日本食品指導士会関西支部の支部長を務めておりました坂口です。関西支部設立から支部長を拝命して以来長い間、関西支部を始め日本食品保健指導士会の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

支部長に就任させていただきことが昨日の事のように思い出されます。振り返ってみますと、在任中には、健康食品の業界に新しく機能性表示食品制度が誕生し、我々を取り巻く環境も大きく変化して参りました。その中で、毎年、時流に沿ったセミナーを関西支部で開催させていただくことができましたのも、支部や本部の皆様の多大なるご協力があったの事と深く御礼申し上げます。

この度は一身上の都合により、支部長を退任させていただきますが、新しい蓬郷支部長の元、日本食品保健指導士会関西支部がますます発展して参りますよう、いち支部員としてご協力させていただければと存じます。長年のご厚意に厚く御礼を申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。

坂口陽子



日本食品保健指導士会 東海支部

Tokai branch
支部長 荒木陽子
副支部長 齋藤弘敏
渡邊正範



第1回食品保健指導士委託事業を 東海支部・春季研修会 ～ウイंकあいち～

食品保健指導士委託事業を東海支部・春季研修会を平成30年6月30日、「ウイंकあいち」にて実施しました。講師に名古屋大学総合保健体育科学センター 保健科学部 健康スポーツ医学 教授の小池晃彦先生を招き、「上手に老いる…脳と筋を鍛える」と題しての講演でした。「アルツハイマーや認知症の発症は、1/3は習慣を変えれば予防ができるとされ、運動不足、喫煙、中年期の高血圧、中年期の肥満、糖尿病…などがリスクとして挙げられる」「最近の研究では、脳の神経細胞は再生することが分かってきており、特に運動による再生は最も有効的であることが明らかとなっている」「適正な運動（週3回40分の速歩）を行い、人生100年時代を上手に老いていきたい」とのことでした。

会員の活動紹介として、アピ株式会社 齋藤弘敏氏が「機能性表示食品の最新情報」を報告。今後の動向を考えると機能性食品自体の差別化が狙えるかなど、考えさせられる内容でした。



第2回食品保健指導士委託事業を 東海支部・秋季研修会 ～名古屋金山ホテル～

第2回食品保健指導士委託事業「東海支部・秋季研修会」を「名古屋金山ホテル」にて平成30年11月16日に実施しました。

講演1ではアピ株式会社 事業戦略室室長 執行役員 河野宏之氏が「健康食品業界の現状と健康食品におけるハラル認証取得」と題して講演。今後のハラル人口の増加を見据えて、国際認証を取得した経緯を説明し、興味深い内容でした。

続いて講演2では敷島産業株式会社 クッキングディレクター

の馬場美穂氏が「健康長寿の食事術」と題して講演。管理栄養士でもある馬場氏からは健康長寿実現のために、日頃から身近に実施できる食事方について、予防医学に視点を向けた「食」の提案がありました。



その他の東海支部の活動及びトピック

- * 6月の総会（春季研修会）では、役員を更新があり、新支部長、新副支部長、静岡・愛知・岐阜の新ブロック長が誕生しました。
- * 9月16日にアピタ大口店にて「健康フェア」に参画し、指導士会の普及に寄与しました。
- * 2019年3月に企業見学会を実施予定しました。



日本食品保健指導士会

関東支部

Kanto branch

支部長 横山次郎

副支部長 鳥沢泰弘



指導士同士での研磨にも期待！

平成 27 (2015) 年に機能性表示食品制度がスタートして 5 年目を迎えました。ご存知のように特定保健用食品の許可数を上回る 2,200 以上の商品が届け出されています。しかし、本当に機能性の内容が理解されているのでしょうか？機能性を有効に活用しているのでしょうか？若干疑問が残るのは皆様も同じではないのでしょうか。

そこで、指導士会では、会員の皆さま、ならびに、健康を気にかけている方々の関心の高いテーマを選らんで、講演会や見学会などを各地で行っています。関東支部でも多くの方々のご協力をいただき、様々な企画を行ってきました。

形成外科の先生からは実際の現場で行われている治療方法やサプリメントの医療現場での活用方法を、歯科医師やジャーナリストの先生からはスポーツ栄養を、調理師で料亭の経営者の方からは栄養素やその機能成分の摂り方の講演を、健康雑誌の編集者の方には情報リテラシーを向上させるコツに関するご講演をいただきました。

なかでも、日本栄養士会の中村丁次会長からは、広い視野から見た“食と栄養”のご講演、さらには講演後の懇親会にまでご参加いただき親睦を深めることができました。

指導士の方々には、いろいろな素晴らしいスキルをお持ちの方が沢山いらっしゃいますので、その方たちと新たな“縁”が広がってゆけば良いと思っております。これからも講演会だけでなく、色々な試みを行ってゆきたいと思っておりますので、是非、みなさまも、ご希望、ご意見をお聞かせください。そして、指導士会の運営に参加して、一緒に指導士会を盛り上げてゆきましょう。

関東支部長

横山次郎

(日本食品保健指導士会副会長)

お子さんも大喜びの「たまごセミナー」！

皆様、こんにちは。関東支部の副支部長を勤めさせていただいております、鳥沢です。関東支部にて初めての試みとなりますが、親子参加型の食育イベント、“たまごのお話し”を埼玉県志木市にて、埼玉ブロックの橋口指導士をリーダーに開催いたしました。

当日は、指導士会の HP を見て頂いた指導士以外の親子を含む 23 名の参加者があり、関東支部長の横山次郎指導士に講師になってもらい、たまごの基本的なお話から、カラザ・胚などのお話、たまごの栄養のお話まで一通りお話して頂いた後、夏休みには少し早い時期でしたが、宿題対策として、その日勉強した内容を壁新聞的に一枚にまとめるという内容で実施いたしました。

参加された方からは、「今までなんとなく食べていたたまごの事が勉強できました」、「普通に考えたら当たり前のことかもしれませんが、色々勉強できました」等のご意見を頂きました。早くもオリンピックも来年となり、日々情勢が変わるこの機会に、微力ながら皆様のお役に立てるよう横山支部長他役員と力を合わせて取り組んでいきますので、何卒宜しくお願い致します。

関東支部 副支部長

鳥沢泰弘



指導士コメント



(株) コナミススポーツクラブ
事業開発本部プログラム開発部
宮本和代

私は食品保健指導士を2006年度に取得させていただきました。資格取得後、指導士会に入会せずに期日までの単位取得を目指したのですが、部署異動や引っ越しなど、協会からの郵便物が手元に届かない状況を自分でも作ってしまい、気が付いた時にはどうにも出来ないほど年月が経っておりまして。

自業自得ですから「もう資格は失った」と諦めてはいたのですが、健康補助食品の必要性が益々高まる中で、正しい情報を得る場を失った状態は苦しく、自分を追い込むばかりでした。昨年「このままではいけない」と、健康博覧会に足を運び情報収集をしていたところ、偶然目に飛び込んできたのは指導士会のブースでした。ブースにいらした松山会長は、私の話を優しく丁寧に聞いてくださり、状況の確認と適切なアドバイスをその場でくださいました。

再受験と10単位取得は私には高い壁ではありましたが皆様のお力添えをいただくことで今回何とか更新させていただく事が出来ました。更新講習の際、その内容の深さと交流から生まれる情報の大切さに気付き、指導士会入会の必要性が身に沁みました。

松山会長をはじめお力添えいただきました皆様のご厚心に心から感謝し、今後の活動につなげさせていただきます。



酒田大輔

「第14回食育推進全国大会 in やまなし」に参加して

6月29日から30日にかけて、会長からお声をかけていただき、食育推進全国大会に参加させていただきました。

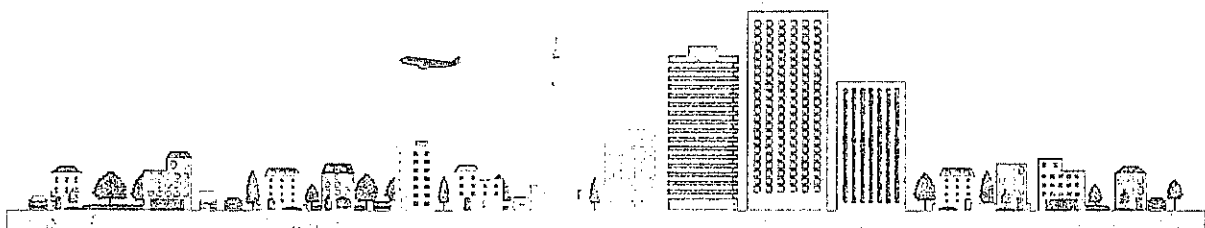
私は保険の仕事をしております。お客様や関係のある方たちに、健康や栄養などのお話をさせていただく機会はそれなりに多くありますが、ご来場された初めてお会いする方の質問に答えたり、アドバイスさせていただくというシチュエーションは、緊張もしましたが、とても新鮮で楽しい時間になりました。

私が栄養や健康のことを学び始めたきっかけは、20年ほど前に経験した通風の発作でした。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、兎に角「痛い」。もう二度とこのような状況になりたくないという思いで、手あたり次第情報を集めたり学んだりしてきました。ここで分かったことは、これまでの生活習慣が、とても酷いものだったということでした。そこで、「これは」と思う情報があると必ず実践してきました。この「実践する」ということが、私に大きな変化をもたらしてくれました。今、私の状態は、これまでで一番いいと実感しています。

今回、この大会に参加させていただき、いろいろな状況に置かれている方とお話しをさせていただいたことは、とても良い刺激になりました。また、今まで自分が経験してきたことや、学んだり実践してきたことが、人様のお役に立つ場面があるということを経験しました。

今回、ブースを出展するにあたり、松山会長が調べてくださったところ、山梨県には食品保健指導士がほとんどいないということがわかりました。山梨県は、男性の健康寿命が日本一ですが、もっと健康寿命を伸ばすためにも、山梨で「食品保健指導士」をアピールしていきたいと思います。

この大会へ参加して、これからも、学び実践することで、まず自分が健康でいる。そして、そういう自分が人の役に立つ。そんな生き方がしたいという思いを強くしました。



くすみだ食育フェス 2019（開催日程：2019年6月20日～22日）※20、21のみ参加>



大久保 将樹

私は2018年度指導士講習会を受講しましたが、健康食品のアドバイザーとして一般の方々とお話しする機会は今回が初めてでした。平日日中の開催で、少し奥まった場所だったにも関わらず、当日は老若男女様々な方々にお越し頂きました。ブースに来られた方々の話をお聞きする他、現地の中学生に向けたクイズ形式のプチ解説なども行い、健康食品についてより深く知ってもらう機会を少しばかり提供出来たと同時に、自分自身も多くの気づきを頂きました。

たどたどしい会話しか出来ない私を尻目に、ブースに来られた初対面の方々と自然に会話を広げておられる松山会長を見て、知識面のみならず話を聞く・引き出すスキルを磨く必要性も痛感しました。今後経験を積みながら精進して参ります。

引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

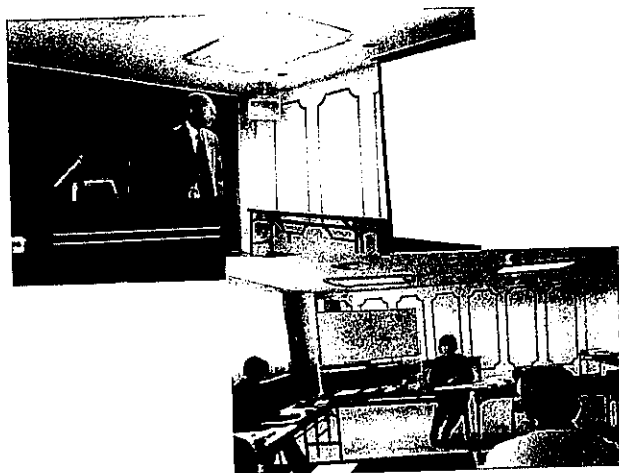
トピックス

東北で初めての 日本食品保健指導士会セミナー開催！

2019年1月19日（土）、酒田産業会館（山形県）で日本食品保健指導士会セミナーが東北地方として初めて開催されました。

公益財団法人 日本健康・栄養食品協会 特定保健用食品部の土田博部長が「保健機能食品の制度と現状」と題して、また公益社団法人 俳人協会の倉橋みどり幹事が「日本の食文化の探索～俳句を通じて～」と題して講演を行いました。

「健康食品」「トクホ」といった観点から関心を持つ一定のニーズがあるもののまだまだその認知度は低く、今後の活動が期待されるところです。



新会員のご紹介

食品保健指導士の終了評価認定試験に合格し指導士会に入会された指導士の皆様をご紹介します。合格おめでとうございます！！

第36回合格者

西 信 幸 指導士（鹿児島県）	大 隈 雅 美 指導士（福岡県）	堀 内 幸 子 指導士（福岡県）
山 本 真 緒 指導士（福岡県）	木 村 誠 指導士（福岡県）	三 好 清 胤 指導士（福岡県）
辰 本 翔太郎 指導士（福岡県）	黒 川 景 介 指導士（福岡県）	

第37回合格者

矢動丸 沙 織 指導士（佐賀県）	渡 邊 みどり 指導士（東京都）	坂 井 一 指導士（東京都）
浜 田 直 樹 指導士（埼玉県）	鈴 木 智 義 指導士（埼玉県）	三 戸 優 大 指導士（東京都）
阿 部 英 明 指導士（神奈川県）	圖 齋 匡 士 指導士（千葉県）	

第38回合格者

宮 崎 定 代 指導士（福岡県）	川 畑 芽 指導士（鹿児島県）	宮 田 美 樹 指導士（鹿児島県）
山 下 美 沙 紀 指導士（鹿児島県）	井 口 法 子 指導士（鹿児島県）	野 田 潤 也 指導士（鳥取県）
佐 藤 真 一 指導士（宮崎県）	中 尾 祐 輔 指導士（福岡県）	戸 次 崇 彰 指導士（福岡県）
田 中 豊 彰 指導士（福岡県）	新 田 邦 子 指導士（東京都）	石 田 早 紀 指導士（東京都）

第39回合格者

田 中 義 人 指導士（東京都）	杉 山 美 沙 紀 指導士（鹿児島県）	引 地 美 咲 指導士（鹿児島県）
波 江 野 優 指導士（鹿児島県）	荒 井 友 香 指導士（神奈川県）	吉 岡 春 香 指導士（東京都）
大 森 千 草 指導士（神奈川県）	大久保 将 樹 指導士（東京都）	島 田 憲 一 指導士（香川県）

展示会や食育フェア等へ積極的に参加して
トクホや機能性表示食品の普及啓発を推進!

東京都食育フェア

第11回 東京都食育フェア 2018 ～楽しみながら食を育もう!～

日時：平成30年11月10日～11日
内容：展示ブース トクホや機能性食品のパネル展示と健康相談
場所：代々木公園ケヤキ並木通り

「第11回 東京都食育フェア 2018 ～楽しみながら食を育もう!～」は2日間とも晴天に恵まれ約200以上の方々がブースに立ち寄って頂き、来場者に「トクホのごあんない2017年版」を配布しました。またブース内にはトクホ商品掲載ポスターを掲示して、立ち寄った皆さんにトクホの説明を行いました。来場者は男女とも高齢の方が多く、薬との相互作用の質問が多かったのも今回の特徴です。トクホの商品は消費者にとってより身近な食品になっているようですが、まだまだ使い方を理解して頂いてないように思いました。引き続き、会としても、今後とも地道に啓蒙活動を行っていく所存です。

尚、森永乳業さんからはトクホ商品「毎朝爽快」を、またアサヒ飲料さんからは「カラダカルピス」「からだ十六茶」を、さらにカルピス健康通販さんからは機能性表示食品の「ラクトウェル」をご提供いただき、これらのサンプル配布をきっかけとして説明を真剣に聞いていただくことができました。この場をお借りしまして3企業様に厚く御礼を申し上げます。

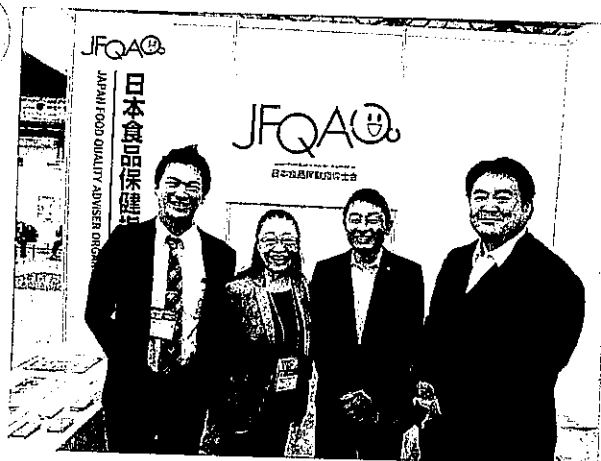


ifia JAPAN

ifia JAPAN2019

日時：令和元年5/22~24 出展
内容：展示ブース トクホや機能性食品のパネル展示と健康相談
場所：東京ビックサイト

ifiaJAPANにも久しぶりに参加してきました。3日間で企業関係者や栄養士等の健康関連の専門職の方々、また指導士の仲間の皆さん等、100名にも及ぶ方々がブースに訪問してくれました。特に企業の方々には、積極的に食品保健指導士の資格取得をお勧めしてきました。



すみだ食育フェス

すみだ食育フェス 2019 「食育でみんながつくる笑顔の環」

日時：令和元年6月20日（木）～22日（土）
内容：展示ブース トクホや機能性食品のパネル展示と健康相談
場所：墨田区役所・リバーサイドホール1階アトリウム



松山理恵子会長、菅原恵子指導士、大久保将樹指導士、平山紀美子指導士、鳥沢泰弘指導士の5人で参加、ブースには3日間で約60人の方々が来訪されました。例年は高齢の方が多いのですが、今回は、高校生や若い子供連れのお母さんが、熱心に説明を聞いていたのが印象的でした。



食育推進全国大会

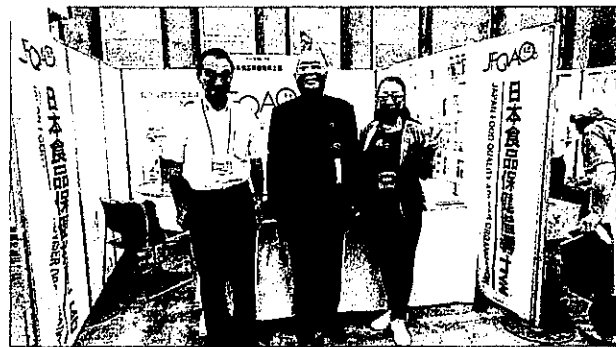
第14回食育推進全国大会inやまなし 「食がつなぐ人と未来」

日時：令和元年6月29日（土）～30日（日）
内容：展示ブース トクホ商品掲載ポスター展示と健康相談
場所：山梨県立産業展示交流館アイメッセ山梨

今回の出展場所は、イベント会場の近くということで場所も良く、例年より多くの2日間で約160人の方々に立ち寄って頂きました。「さかなクンのトークショー」や「アンパンマンショー」などが催されたため、子供連れの家族が多かったように思います。

参議院議員で日健米協会長の山東先生や料理研究家の服部先生もブースに立ち寄ってくださり、激励の言葉を

頂きました。実は、山梨県はまだ指導士の資格取得者が非常に少ないという事がわかりました。今後、山梨の企業の方々や健康・栄養関連のお仕事をされている皆さんに、積極的に食品保健指導士を取得していただければと思います。



日健栄協 協会マーク刷新！

今年度から「日本健康・栄養食品協会マーク」が新設されました。健康を表すハートとそれを支える手、そこに「(チェックマーク)」をプラスしたもので、保健機能食品や特別用途食品等の普及を通じて人々の健康をサ

ポートするとともに、健康食品の安全性の認定機関として、厳正に審査する姿勢を視覚化したものです。

協会マークは、会員企業の名刺や会社パンフレット、ポスター、ウェブサイト等、企業広報に活用できます。

【新しい協会マーク】



【新しい認定マーク】



日健栄協がトクホの表示に関する公正競争規約策定へ！

公益財団法人日本健康・栄養食品協会（日健栄協）は7月23日、特定保健用食品（トクホ）の表示に関する公正競争規約を今年度中にも策定し、来年度から施行することを発表しました。

日健栄協ではトクホの広告自主基準を2007年に策定し運用してきましたが、法的な運用にはなっておらず強制力には限界があったために、トクホ制度全体の格上げと消費者の信頼感アップを目指します。

現在、業界ではロイヤルゼリーが昭和54年に表示に関する公正競争規約を制定しており、他業種では乳製品で5つ、飲料で6つ、さらに化粧品や歯磨き、洗剤等でもそれぞれ公正競争規約が存在しています。

尚、適合マーク策定に関しては未定。現在、日本のトクホの売り上げの90%は日健栄協の会員企業、日健栄協のトクホ部会には16社が参加しており、すでに公正

競争規約策定準備委員会をスタートさせて準備に入っています。

